



エミリオ



ローザ



プリモ



マリア・ベッピーナ



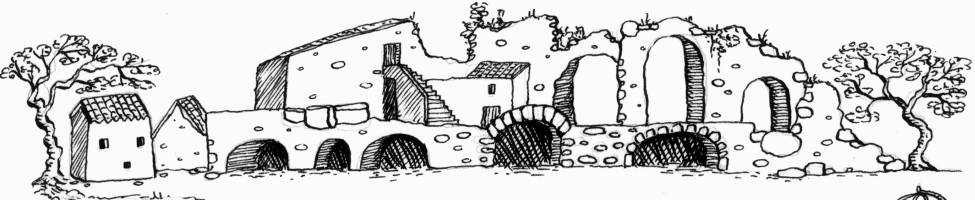
セルジオ



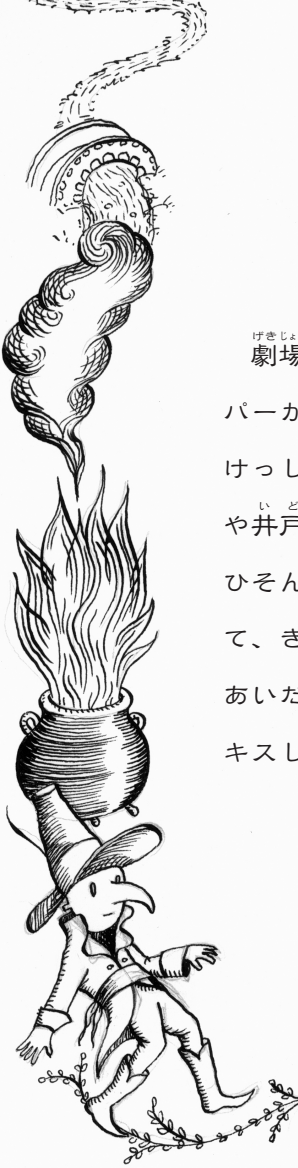
## もくじ



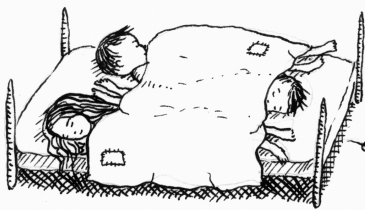
どくしゃ 読者のみんなへ	7
ベネベントの地図	10
1 ♡ ぬすまれたチーズ	14
2 ♡ 塩 <small>しお</small> をかぞえて	22
3 ♡ ジャナーラのせい	34
4 ♡ ピアばあさん	41
5 ♡ ブルー ブロー ブリー ブリッ!	52
6 ♡ イシュ カ・ビブル	58
7 ♡ 魔物 <small>まもの</small> の木 <small>き</small>	72
8 ♡ アメリゴじいさん	92
9 ♡ オレガノのききめ	108
どくしゃ 読者のみんなへ ふたたび	120
まものじてん 魔物事典	122
とうじ 当時のくらしについて	124
ベネベントの歴史 <small>れきし</small>	126



## ベネベントの 魔物についての教え



げきじょう  
劇場のなかをかけぬけると、クロッ  
パーがおいかけてくる音がきこえても、  
けっして立ちどまっちゃいけないよ。橋  
や井戸には、ちかづくな。マナロンガが  
ひそんでいるからね。よいおこないをし  
て、きちんと仕事をすれば、夜ねている  
あいだも、ジャーナラはこない。ママに  
キスして、ぐっすりおやすみ。





いがあらいのは、目のまえにそびえたつもののせいです。長い長い階段があり、そのさきにくらなくとまじないをする、ピアばあさんの店があります。

「ほんとに、いかなきゃだめ？」セルジオがいました。

ローザたちのだれも、ピアばあさんの店に入ったことはありません。でも、おじさんやおばさんたちは、ピアばあさんにお金をはらって、のろいをとりはらってもらったり、あの世へいった家族と話をさせてもらったり、なくしてしまった宝石をみつけてもらったりします。ローザとエミリオのお母さんは、おなかにあかちゃんがいるので、気持ちが変わるのをおさえる薬をもらいにきたばかりです。

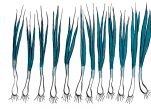
「ピアばあさんなら、どうすればいいか知ってるはず。」ローザがいます。「ピアばあさんはジャーナラだって、きいたことがあるもん。」

「そんなはずないよ。」エミリオがいます。「自分がジャーナラだなんて、だれにもいわないはずだよ。」

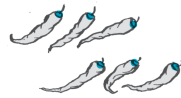
「ピアばあさんがいったんじゃない。ほかの人がいったの。」

「オデュッセウスは、キルケの魔法を、強力で、しかもありふれた薬草でうちけした。ワイルドガーリックさ。」

「ワイルドガーリックなら、うちにはえてる！」ローザがいいます。「それだけはね。」  
「子どもたちや、わたしの話をよくきいて、そのとおりにするがいい。」ピアばあさんがいました。「用意するものは……」



ワイルドガーリックを十二本、



干したトウガラシを六本、



カエルのせなかをこすった、ほそながい葉を一まい。



それらをすべて、すりつぶしたら、  
ガチョウの羽根にぬりつける。



指四本ぶんのふかさにほったあなに、羽根をうめる。



あなをほるのは、家から二十歩ぶん、はなれた場所だ。

歩くむきは、黒い雲のあるほうだよ。

そのあと、じゅもんを三回となえる。

『ジャナーラ、ジャナーラ、あっちへ いけ！』

ブリー ブリック ブロー ブルー！

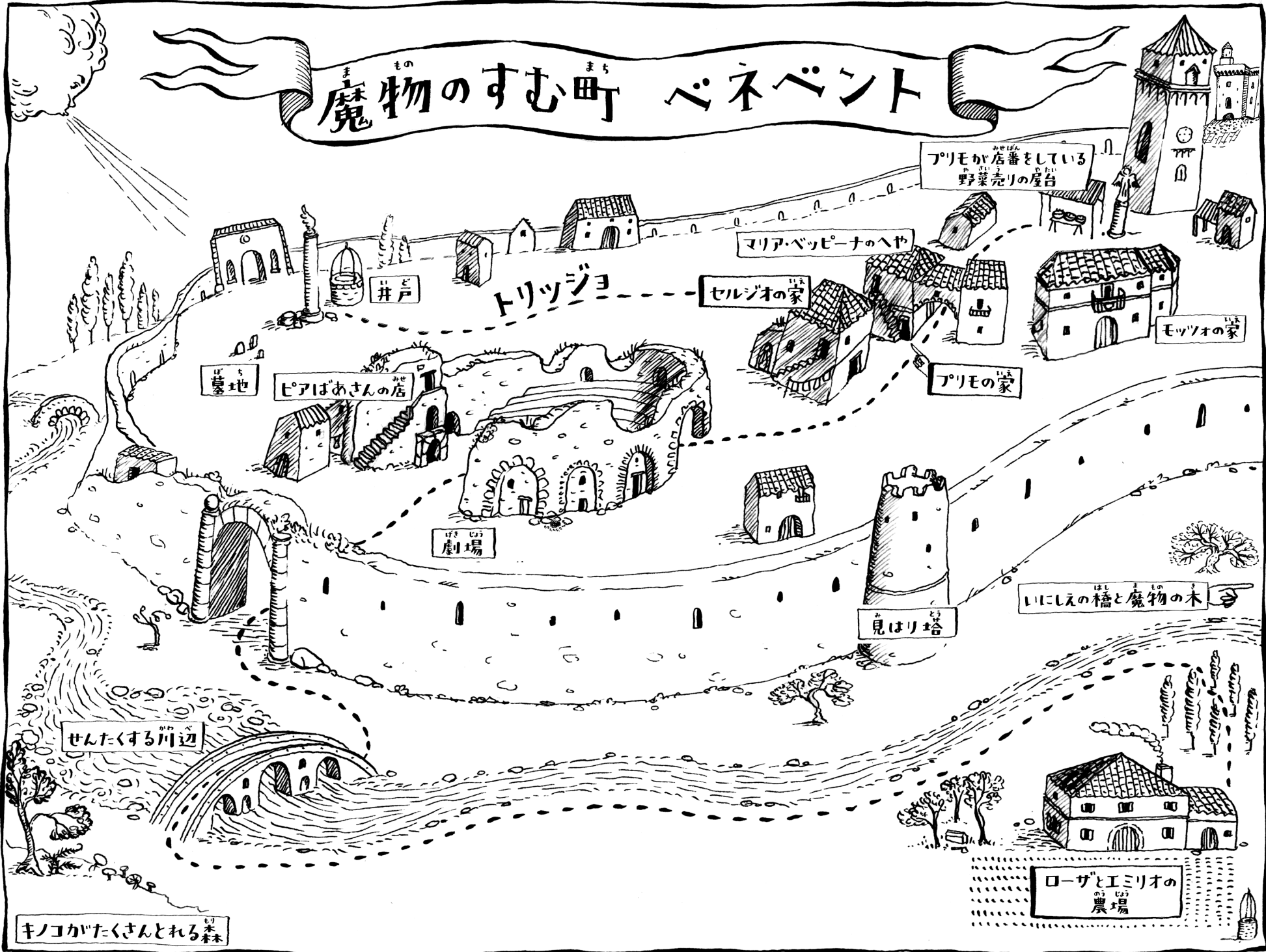
カエルぬめぬめ、火はほうぼう。

どろんどろんどろん、とんでいけ！』



子どもたちは口ぐちに質問しようとしたが、ピアばあさんはエミリオの手から銀貨をもぎとると、店からおいだしました。

# 魔物のすむ町 ベネベント



墓地

ピアばあさんの店

井戸

トリツジョ

セルジオの家

マリア・ベッピーナのへや

プリモが店番をしている  
野菜売りの屋台

モツツオの家

プリモの家

劇場

見はり塔

いにしへの橋と魔物の木

せんたくする川辺

キノコがたくさんとれる木

ローザとエミリオの  
農場

## 当時のくらしについて

一八二〇年代のベネベントの人びとのくらしは、現代とはかなりちがいます。

子どもたちは学校へいかずに、はたらきます。子どもたちがまなぶのは、パン職人や、ろうそく職人になるための勉強です。

子どもたちは文字を読めたでしょうか？ いいえ！ 文字を読める子はほとんどいませんでしたし、大人も文字を読めません。本を読むのは、変わりものがすることだと思われていました。

大きい数をかぞえたり、暗算したりすることはできません。でも、小枝や火うち石をつかって、火をおこす方法は知っていました。

クレジットカードも、紙のお札もありません。なにかを買うときには、コインではらいま

す。コインは、たいてい銅（こまごましたものを買うとき用です）か、銀（大きなものを買うとき用です）できています。金のコインは、ものすごいお金持ちしかもてません。

ベネベントの人たちは、ふれ役からの知らせで、世のなかでなにがおきているのかわかります。子どもたちの楽しみといえば、語り部の話をきいたり、音楽をきいたり、人形劇を見にいったりすることでした。

まどにはガラスが入っていません。建物にあけたあなには、「よろい戸」という、木でできた戸がとりつけてあります。当時、ガラスはとても高いものでした。

プラスチック製のストローはありませんが、自然のストローがありました。なかが空洞になっていて草のくきを干して作ります。飲みものをのむには、ちょうどいいんです！

ほとんどの人が生まれた家からはなれず、そのまま住みつづけます。なかには、生まれてからいちども町から出たことのない人もいます。たったのいちども、です。

## 魔物事典

ベネベントでは、ふしぎな生きもののことをみんな「魔物」とよぶ。だから、魔物といっても、こんなにたくさん種類がいるんだ。

【クロッパー】年老いた魔女で、ある種族のさいごの生きのこりだと信じられている。劇場広場をよこぎろうとする子どもたちをおいかけて、つかまえる。ベネベントに住む子どもたちならだれでも、クロッパーの木ぐつがたてる「クロッパ、クロッパ」という音をきいたことがあるはずだ！

【デーモン】動物のふりをして人間といっしょにくらしている、ずるがしこい魔物。ベ

ネベントでは、七ひきのネコのうち一ぴきはデーモンで、黒ネコなら三びきのうち二ひきはデーモンだ。いっぽう、犬のすがたのデーモンはいない。ヤギはたいいていデーモンだという。

【ゴースト】若いうちに死んでしまった人の魂はゴーストになる。その家に住む子孫が、ゴーストの世話をしなければならぬ。「祖先の精霊」ともいう。



【ゴブリン】たまにジャナーラがペットとしてつれていて、動物のような魔物。

【ジャナーラ】ベネベントの住人のうち、何人かの人（男でも女でも）はジャナーラだ。魔法の油をわきの下にこすりつけ、じゅもんをとなえると、ジャナーラになる。風のように実体はなく、夜のあいだにいたずらをする。ジャナーラが、自分から正体をあかすことは、けっしてない！

【マナロンガ】もともとおそろしい魔女。橋の下や井戸のなかにひそんでいて、人間の子どもたちをつれさっていく。その目的はわからないものの、邪悪なことにちがいない。

【メア】ねむっている子どもたちのむねにすわって、悪夢を見せるゴブリン。

【精霊（スピリット）】実体をもたない魔物で、家のなかや、えんとつ、小川や町の門の下など、きまった場所にいる。ゴーストや家つき妖精、水の精霊なども、この一種だ。

